

「福島大学学生教育支援基金」

平成28年度 支援事業 成果報告

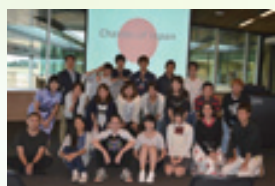
福島大学学生教育支援基金は、地域の再生復興を見据えながら、グローバル化が進展する社会で活躍できる「強い人材」の育成を目指し、学生が存分に勉学に励み、国際性を育み、社会的実践力を身につけることができるような教育環境を整備することを目的とし、学生支援や国際交流、学生教育環境整備事業等を支援します。平成28年度は、同基金による支援事業として、留学補助等の4事業を採択しました。本紙では、事業の内容をご案内するとともに、その成果をご報告いたします。ご寄附いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

学 生教育支援基金支援事業「福島大学生留学促進給付金制度」活動紹介

グローバル人材育成の必要性が叫ばれる中、本学の学生が海外に目を向け、留学にチャレンジしやすい環境づくりが求められています。そのような課題に応えるため、国際交流センターでは、本基金を利用し、本学学生の海外拠点協定校への短期語学研修プログラムと交換留学派遣を学類と連携して企画しました。

まず短期語学研修プログラムとして、韓国・中央大学短期語学研修、オーストラリア・クイーンズランド短期語学研修、米国・コロラド州立大学海外演習、フィリピン・アテネオ・デ・マニラ大学短期語学研修を企画したほか、行政政策学類が実施した

ドイツ研修プログラムでの奨学金支給や保険加入等の事務手続きで協力しました。さらには、交換留学派遣プログラムでは、海外協定校へ11名の学生を派遣しました。派遣先は、米国・オザークス大学、サンフランシスコ州立大学、ドイツ・ルール大学ボーフム・ハノーファー大学、ベラルーシ・ベラルーシ国立大学、中国・華東師範大学、重慶理工大学、韓国・韓国外国語大学、中央大学と多岐に渡っています。派遣された学生は約1年間協定校で語学を中心に学習し、平成29年12月～平成30年2月に帰国する予定です。



プレゼン終了後に記念撮影
(クイーンズランド大学短期語学研修)



現地学生と一緒にグループワーク
(アテネオ・デ・マニラ大学短期語学研修)



現地学生と一緒に記念撮影
(コロラド州立大学海外演習)



特別支援教育専攻の授業
での車椅子体験
(交換留学：オザークス大学)

新 しい若手リーダーに学ぶ地域活性化のための教育プログラム

地域の再生復興のために活躍できる人材の育成に向けて、学生の意欲を高めることを目的に、各地域で地域活性化に取り組んでいる人々のもとを訪れ、現場で活動の様子を体験しました。若手リーダーの話を伺うことを特に重視し、多様なネットワークを形成しながら、次々と新しい取り組みを実現させているノウハウを学ぶことに加えて、活動を持続的に進めていくために必要な考え方について実感してもらうことは、学生にとって非常に貴重な体験になることが期待されます。

2016年9月に、蛤浜という小さな漁村の復興に取り組んでいる「一般社団法人はまのね」、三陸地区の若手漁業者の

ネットワークを中心として新しい時代の漁業の創造を目指している「フィッシャーマンジャパン」を訪問しました。蛤浜では活動の拠点である「CAFÉ はまぐり堂」での取材を行いました。

2016年11月には牡鹿半島で住民同士の相互支援に取り組んでいる「寄らひん牡鹿」を訪問し、現地の方のお宅に伺い、支援業務に参加しました。参加した学生は、自らの体験を他の学生に伝えるために、2回の報告会(11/2, 12/1)を行い、熱のこもった言葉で思いを伝える様子が印象的でした。話を聞いていた他の学生たちも大いに刺激を受けたようです。



フィッシャーマンジャパンでの取材



漁港の視察



報告会の様子(11/2)



報告会の様子(12/1)

日 独学生共同研究・交流プロジェクト―「持続可能な地域」をつくる仕組みと活動

『農業が主な産業である中山間地域の衰退に歯止めをかけ、持続可能な「地域」をどう作るか』日独共通のこの課題に、福島大学生とマルティン・ルター大学ハレの学生が、共同で取り組みました。福島とハレ、それぞれの場で半年間の事前研究の後、共同シンポジウムを、11月10日(木)にマルティン・ルター大学ハレの歴史ある講義棟「メランヒトン記念講堂」で開催しました。福島大学側から4報告、マルティン・ルター大学ハレ側から1報告、計2時間のシンポジウムは、100名を超える聴講者を交えた活発な意見交換の場となりました。

共同シンポジウムを前に私たちは、再生可能エネルギープロジェクトで持続可能な村づくりを成功させたドイツ・バイエルン州の「エネルギー村」グロースバールドルフとウンスレーベンを訪ね、ホームステイをしながらフィールドワークを実施しました。プロジェクトを住民参加の協同組合方式で運営したこと、村内におけるスポーツや芸術活動を担う各種協会(フェライン)の日常的な活動が協同組合設立を容易にしたこと、現代的でありながら濃密な住民同士のコミュニケーションを深める仕掛けが多数用意されていること、こうしたすべてを支える小さな自治体の自治の仕組みが機能していること等、村づくり成功の秘訣を学んで帰ってきました。

今後この貴重な共同研究と交流の成果は、ドキュメンタリー映像としてまとめ、公表する予定です。



シンポジウム終了後全員で



グロースバールドルフ・
バイオガス発電施設見学



グロースバールドルフ農家研修



FC グロースバールドルフとの
交流試合

「学びのスタッフ」による福島大学生の学習活性化事業 ―ラーニングコモンズを核とした学際的な学習企画開発―

「学びのスタッフ(2017年度以降、学びのナビゲーター)」はラーニングコモンズを筆頭に学習環境が充実している附属図書館を拠点として、全学的な学習支援活動を企画・実施する学生アドバイザーで、「大学教育の充実」と「福大生の学習の活性化」を学生の視点で促進する役割を担い、教職員と協働しながら“学生による学生のための学習支援”の可能性を追求しています。具体的には、学生からの相談に応じる「学習相談対応」や、授業外で新しい学習機会を創出する「学習イベント企画」、授業との連携で実施する「出前授業」、さらには福大生に新しい学習方法を提案する「自主ゼミ開発」など、その活動は多岐にわたっています。

「学びのスタッフ」は与えられる立場から、支援者として提供する立場に変わること、アクティブ・ラーナーとしての成長を促進させていくと共に、コミュニケーション力や企画力、プレゼンテーション力、ファシリテーション力など様々な実践的なスキルも磨き、さらに福島大学生の学習支援を自分たちが担うという「責任感」も日々培われています。本活動は社会の構成員として活躍する上で必要とされる力を、大学で実践的に獲得していく貴重な機会となっています。

学生を大学教育・学習支援の担い手として活動させる取組みは、学習支援を享受する学生への効果だけでなく、活動する学生の成長にも大きな影響を与えます。「学生の力」の可能性と将来性から、「学生による学習支援」の取組みは今後更なる発展が期待されます。



スタッフによる活動検討の様子



自主ゼミ開発の様子



「学習相談対応」の様子